

## 教えるは学ぶの半ば

昨年4月に主宰しスタートした「経営いろは塾」の2月定例会が2月17日開催されました。

スケジュールのスタートはメンバー4名による交代制の5分間のスピーチです。テーマは決められていて「私の仕事、私の思い、私の情報他」などです。

さすがに各自3回目となりますスピーチですので、内容や姿勢などが立派で、大いに感心もし、また学ぶことが多い一時です。申すまでもなく人は与えられた状況に適応し、事態に即応することにより経験を積みます。その経験が他の評価もあり、自信に継がり、次の機会に生きて来ます。またスピーチの内容もその組立ても、常に日常のなかの気付きや、それを深掘りして思いを施せ、自分のものとしています。

なにかの機会に急にスピーチを求められても、スマートにそれに適応する人は、このような経験と思いの深さと柔軟な姿勢で、日々を臨んでいる方だと理解しています。

この「経営いろは塾」の主宰の発端となりましたことは、私がここ数年来、東京都の外郭団体等より「創業セミナー」や「起業塾」での経営実学を踏まえた講義を依頼され、参加した受講生の方々からその後、継続して諸々の相談にあずかってまいりました。そのなで強く感じましたことは、起業してこれから経営をスタートさせる人、また、実際に経営に携わっている若手経営者にとって、「理論・方法論」のセオリーだけでなく、経営の実学の基本的ことがらと、それに関する多くの知恵を学ぶべきと云うことでした。

また職業専門職（士業）の方は、クライアント（顧問先）に対し、高度で良心的な士業活動をするとき、先ず第一に求められることは、事業経営者のおかれている経営における基本的なスタンスや、幅広い経営に関することからへの理解です。そのためには身近なさまざまな業種の事業経営者との良好な接点が求められます。経営のいろはを学び、社会や人間を知ること、その他経営周辺のものごとや知識を深めることは、士業の皆さんにとって大きな意味あいで、自己修練の場となります。そして講義終了後の懇親会は、他の職業専門職（士業）の方、事業経営者、講師等とのよき交流の場となると確信しております。

約1ヵ年近くこれら一連の活動を通して、私が深く感じたことは「教えるは学ぶの半ば」と云うことでした。要約しますと、毎回私自身が時流に合わせた経営の要点や、その他のカリキュラムを作成し当日に臨むわけですが、塾生のみなさんにそれを提示し、教えるということは自らもその半分を学ぶということに気づかされます。資料整理のために多くの資料を集め、目を通し纏めあげることですが、意外にそれらのことからに関して知らないことも多くあり、しっかり調べて準備しております。

いくら45年の経営実務と、多少とも専門知識を持とうが、中途半端の知識は当然の如く人に理解を求める結果は知れています。

懇親会の席上で女性の専門職の士業の方が、先程のメンバースピーチを私が誉めましたところ、「アウトプットするためには常日頃インプットに努めている」と話して下さいました。私も納得した「言葉」のご馳走でした。